

学生がより安心・安全に生活できる環境の確保に努めます

福島大学は平成23年5月からの新学期スタート以来、通常通りの授業等を行いながら、学内の「除染」作業を段階的にすすめています。「復興」に向けたさまざまな取り組みも本格化し、本学学生のボランティア活動も活発になっています。ここで福島大学の最新情報をお伝えしたいと思います。

1. 学生の1週間の積算線量を計測しました

学生の1週間の積算線量

- 本学の在学学生に協力してもらい、平成23年12月1日～14日の期間中の連続する1週間の積算線量を計測したものです。
- 計測は、身体に身につけて被ばく線量を測定する「電子ポケット線量計」(マイドーズミニPDM-122/日立アロカメディカル(株)製)を使用しています。
この線量計は、本学の「放射線相談窓口」で学生に貸し出しています。
- この結果からは、コンクリート建物は遮へい効果が高いことが見受けられます。
また、空間線量率と滞在時間から計算によって得られる推定被ばく量と実際に計測によって得られる被ばく量との違いも見られます。



福島市地図

自宅住所 (寮・アパート・自宅)	自宅建物構造	1週間の積算線量 (μSv)	1年間の積算線量 見込み (mSv/年)	備考
福島市金谷川(学生寮)	コンクリート	15	0.782	屋外滞在が少ない
福島市金谷川(学生寮)	コンクリート	18	0.939	屋外滞在が少ない
福島市金谷川(学生寮)	コンクリート	28	1.460	屋内サークル活動(運動)あり
福島市金谷川(学生寮)	コンクリート	29	1.512	県外移動あり
福島市金谷川(アパート)	コンクリート	18	0.939	屋外滞在が少ない
福島市金谷川(アパート)	コンクリート	25	1.304	実験でX線使用あり
福島市金谷川(アパート)	コンクリート	29	1.512	県外移動あり
福島市金谷川(アパート)	コンクリート	31	1.616	屋外サークル活動(運動)あり
福島市金谷川(アパート)	コンクリート	18	0.939	屋外滞在が少ない
福島市松川町(自宅)	木造	38	1.981	県外移動あり
福島市伏拝(アパート)	木造	22	1.147	屋外サークル活動(運動)あり
福島市清明町(アパート)	木造	22	1.147	県外移動あり
福島市陣場町(アパート)	コンクリート	18	0.939	県外移動あり
福島市舟場町(アパート)	コンクリート	30	1.564	屋外滞在が少ない
福島市森合(自宅)	木造	51	2.659	木造建物滞在が多い
福島市菅木野(自宅)	木造	32	1.669	木造建物滞在が多い
宮城県柴田町(自宅)	コンクリート	18	0.939	屋外滞在が少ない

2. 平成24年度入学料及び授業料の免除について

～東日本大震災(原発事故含む)及び激甚災害において被災された方対象～

福島大学では被災学生に対する就学機会を引き続き確保するため、東日本大震災及び東京電力福島第一発電所事故ならびに平成24年度において豪雨災害等で被災された方々を対象とした平成24年度の入学料及び授業料の免除を実施します。
対象者・提出書類など詳細はHPをご覧ください。

★平成24年度入学料及び授業料の免除について

<<http://www.fukushima-u.ac.jp/guidance/top/topics/h23/111130-menjo.html>>

3. 除染計画

除染計画の実施

- 平成24年7月～8月
キャンパス内のU字側溝、および高線量地点(ホットスポット)に溜まった落ち葉や土砂等の除去と洗浄作業を実施。
- 平成23年12月～平成24年1月
サッカー・ラグビー場、ハンドボールコート、野球場、弓道場、馬場について、表層土を5cm程度除去し、新たに表層土を搬入し締め固める工事を実施。(除去した表層土は運動場内に集中埋設処理用トレンチを設けて設置。)

空間放射線量率(μSv/h)

	野球場マウンド	サッカー・ラグビー場中央
2012/01/05	0.20	0.17
2011/12/28	0.20	0.17
2011/12/22	0.30 (表層土除去後)	0.17
2011/12/15	1.09	0.19 (表層土除去後)
2011/12/08	1.07	0.98



グラウンドの除染の様子

- 平成24年2月以降
陸上競技場(芝生部)、テニスコート、中央広場について、除染工事を予定。
- 大学キャンパスの放射線量低減(構内除染)に向けた当面の取り組みについて
長期的な取り組みを含め、大学キャンパスの放射線量率低減に向けた方針を学長メッセージでお示ししています。詳細は大学HPをご覧ください。
★学長メッセージ<<http://www.fukushima-u.ac.jp/guidance/top/sinsai-m111005.html>>

4. 地域支援・子ども未来支援で本学学生が活躍しています

地域とともに歩んできた福島大学は、これからも地域の方々と力を合わせて未来を切り開く覚悟を持ち、「うつくしまふくしま未来支援センター」を設立しました。

センターには、地域復興・産業復興・環境共生・放射線対策・地域エネルギー・こども支援・若者自立・歴史資料・ボランティア支援の9つの担当(プロジェクトチーム)を置き、福島県や関係自治体等とも協力しながら、新しい地域づくりのビジョンと方途を提案する役割を担い、復旧・復興の支援活動に取り組んでいます。

本学学生も、地域支援・こども未来支援などの活動を自主的に展開しています。

★FUREうつくしまふくしま未来支援センターHP <<http://fure.net.fukushima-u.ac.jp/>>

◆子ども未来支援クリスマスパーティーを開催◆

仮設住宅に避難中の小中学生を訪ね、学習支援や遊び支援のボランティアを続けてきた学生が中心となり、福島大学に避難生活を送る子どもたちを招いて「子ども未来支援クリスマスパーティー」を開催しました。

離れ離れになった子どもたちは再会を喜びながら、サンタやトナカイに扮した学生と共にビンゴゲームやクリスマスの食事を楽しんでいました。



子ども未来支援クリスマスパーティー

◆望みを持って新年を迎える「望年会」の開催◆

学生団体「福島大学災害ボランティアセンター」が企画して、福島市内5か所の仮設住宅で住民らと餅つきなどを楽しむ「望年会」が開かれました。

臼と杵を使って学生と住民の方々交代で餅をつき、集会所に集まったお年寄りらに振る舞われました。どの場所でもたくさんの方が集まり、餅や食事を囲みながらの学生との懇談を喜んでいただくことができました。



望年会の様子